平成 30年　　3月　8日

研修報告書

氏名：浅野　拓也

所属：市立函館病院　産婦人科

研修期間：平成　28年　　11月　1日　～　平成　30年　2月　28日

研修場所：札幌医科大学（インテンシブコース）

受講動機：出生前診断への興味関心が高まるなか、診断機器の向上、技術革新により胎児奇形の診断や染色体異常ソフトマーカーの発見が容易となり、また遺伝性癌の周知により産婦人科の日常臨床のなかでも遺伝カウンセリングを行う機会が増加しています。しかし北海道では特に道央圏以外の施設で遺伝専門医によるカウンセリングが可能な施設はほとんどなく、地域間格差が生じ、かつ症例の適切な施設へのコンサルトも距離的要因によりなされていない現状があります。当方の勤務する道南圏でも同様であり、高度な専門性を有した臨床遺伝専門医の必要性を痛感しております。

　今回は当方のような一般病院の臨床医でも、限られた期間で集中的に遺伝カウンセリングについて学習できることに魅力を感じ申し込みしました。札幌医科大学の理念に沿い、遺伝診療を通じて北海道の地域医療に貢献したいと考えております。

研修内容：

月1回の札幌医科大学での臨床カンファレンスの参加、ロールプレイ実習の参加、遺伝外来陪席、学会発表についての師事

研修成果：

GCRP2017　北海道　参加

第７０回道南医学会大会 2017年11月18日　函館市

NT肥厚に対してFMF softwareを用いてカウンセリングを行った1例

第3回　日本産科婦人科遺伝診療学会 学術講演会　2017年12月16日　淡路市

双胎家族歴を有する胸-臍結合体双胎の一例

その他（感想・要望・反省点、等）：

市中病院から札幌医科大学に伺っての研修でしたが、石川先生、櫻井先生はじめ遺伝医学の先生方、遺伝カウンセラーの方々にはご多忙にもかかわらず、ロールプレイなど学習の時間を作っていただけました。また定期カンファレンスでは他科の先生方と様々な症例の活発なディスカッションがあり大変勉強になりました。勉強会や講演会などの案内も定期的に頂き、学習する機会を積極的にいただけました。

当方が勤務している函館市と札幌では距離が離れているため、頻繁に往来ができず、限られた時間の中での研修になってしまいましたが、日常診療において遺伝カウンセリングを行う際の事前準備、場のセットアップ、会話のテクニックなど研修を開始してから習熟がみられたと感じています。